

メトロール(東京都立川市、松橋卓司社長)の精密位置決めセンサーは数値制御(NC)装置付きの工作機械に欠かせない。1000分の1ミリ単位で正確に刃先の始動位置を決めることができ、工作機械の稼働率を大幅に向上できる。競合品に比べて価格は大幅に安く、マシンングセンター向けは世界市場で首位の実力を持つ。海外市場にも積極的に展開し、業容を拡大する。

### スマホ需要急増

「今期(2013年1月期)も最高益を更新できるのは確実だ」。松橋社長は明るい表情で語る。けん引役は売上高の約2割を占める中国市場だ。世界的なスマートフォン(高性能携帯電話IIスマホ)ブームを受け、

# 工作機械の稼働率向上

## 技あり中心 強さの秘密

## 低価格武器に用途拡大

### 《会社概要》

- ▽創業 1976年
- ▽本社 東京都立川市高松町1の100
- ▽売上高 約13億1000万円(2012年1月期)
- ▽従業員 102人(パート含む)
- ▽事業内容 精密位置決めセンサーの開発・製造・販売

NC装置付きの工作機械は、プログラムに従って自動的に金属などを加工するため、切削工具の始動位置を正確に決めることが不可欠だ。

だが、長時間の加工で、工具が摩耗したりする。そのままだと予定していた寸法と違う加工をして、2000分の1ミリ以内の誤差しか生じないほど耐久性がある。

メトロールは、当初はNC旋盤向けだったが、徐々にマシンングセンターなどにも対象を広げた。

しかもセンサーは刃先が300万回接触しても、2000分の1ミリ以内の誤差しか生じないほど耐久性がある。

競合品に比べ、低価格という点も大きな武器だ。工作機械向けセンサーの1個当たりの価格は3万円程度から。バネや金属部品などで構成する機械式のため、増幅回路(アンプ)などを内蔵する競合品のレーザー式センサーに比べ「価格は10分の1程度」(松橋社長)という。

海外展開にも注力する。昨年インドのバンガロールに支店を設け、今年に入って台湾の台中に子会社を設立した。中国の上海にある子会社とあわせ、現地メーカーへの直接販売に力を入れる。海外売上高は全体の6割を占める。

スマホ用ガラスの加工機械向けに、センサー需要が急増している。今期の売上高は過去最高の約15億円と前期比で10%以上の増加を見込む。

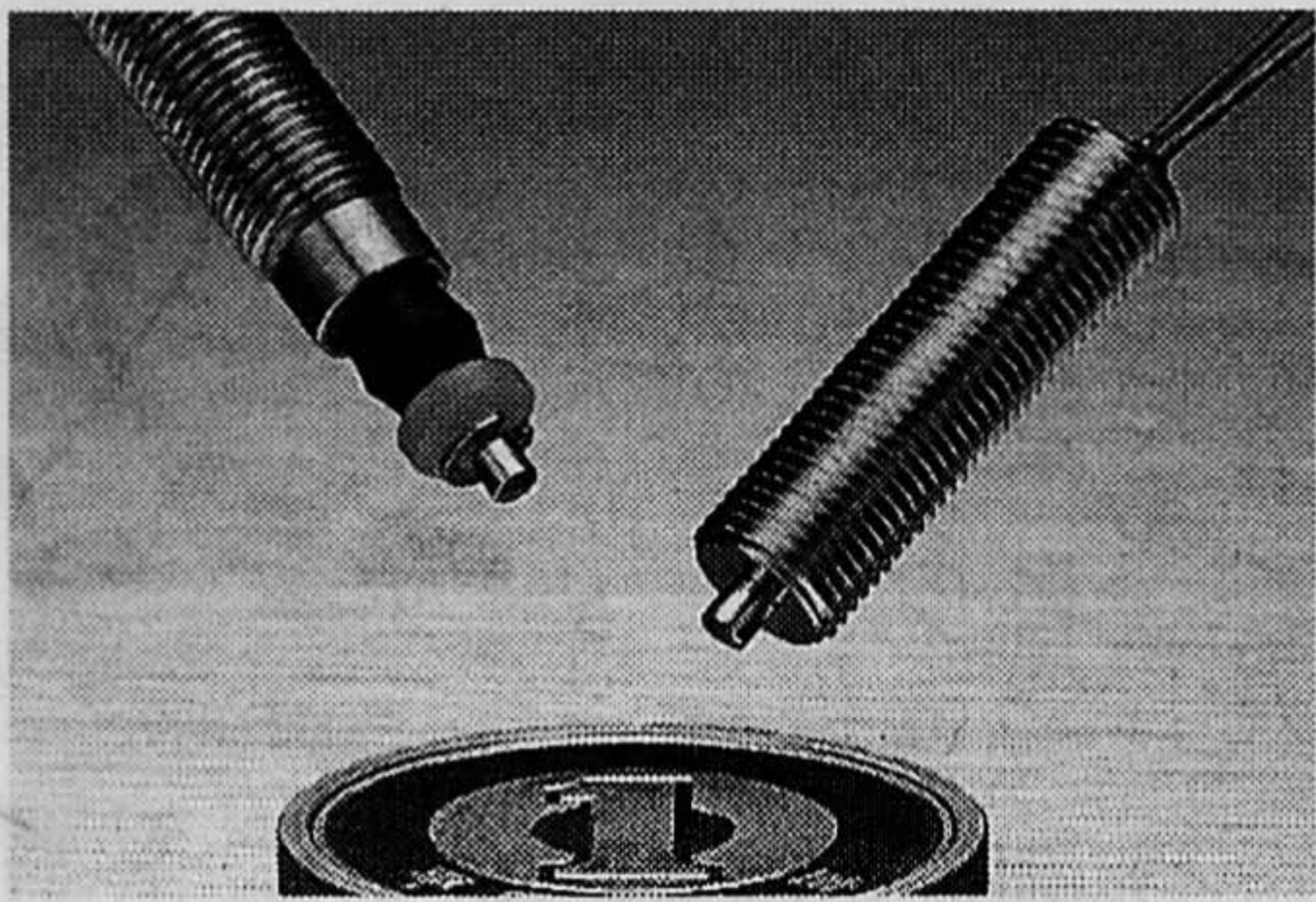
松橋社長の父親である章氏が1976年(昭和51年)に創業した。工作機械向けの機械式精密位置決めセンサーを1980年に世界で初めて開発したのが、飛躍のきっかけとなった。

当初はNC旋盤向けだったが、徐々にマシンングセンターなどにも対象を広げた。

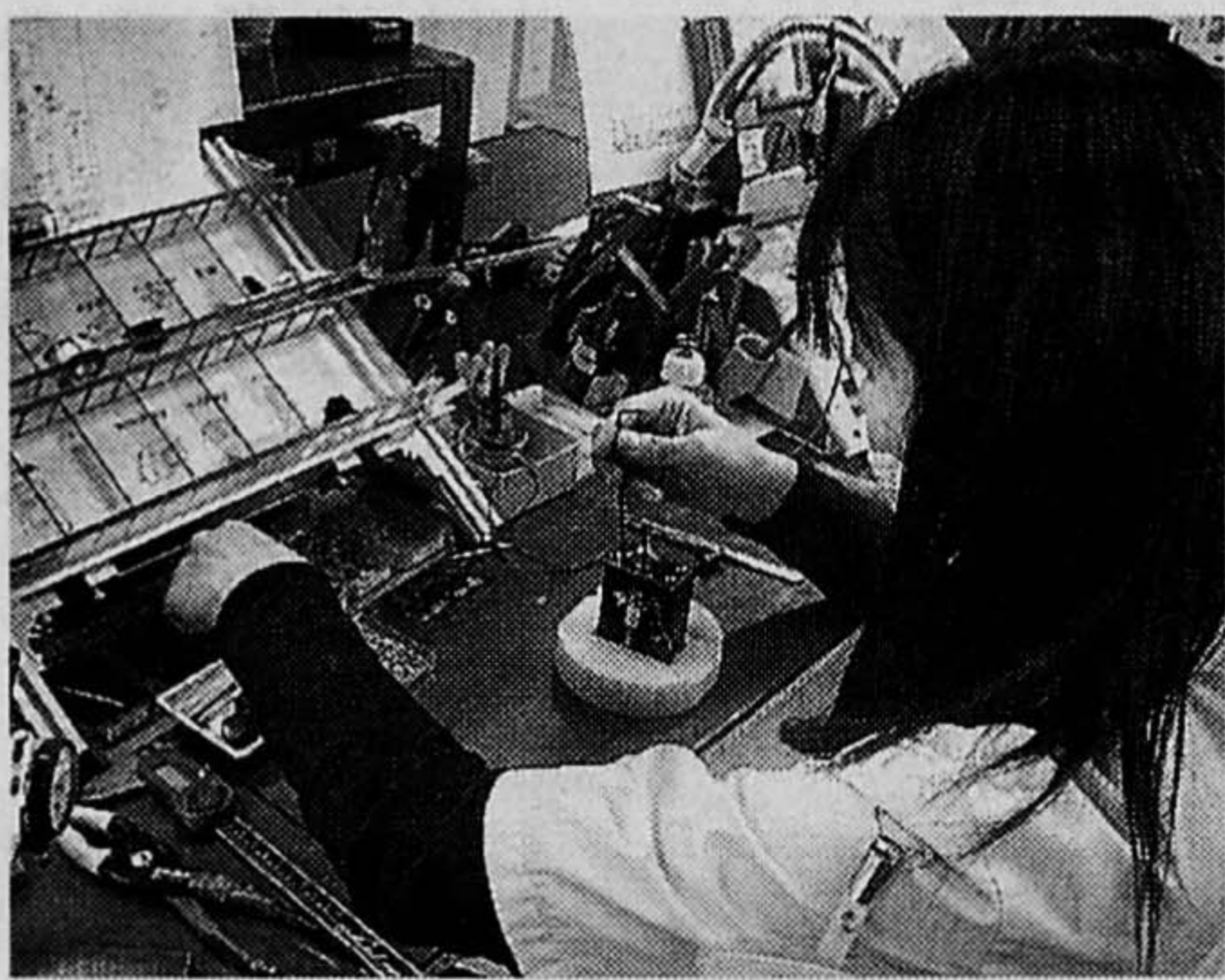
従来は、長時間加工する際や工具の変更時に、センサーを使えば、刃先その都度、技能者が刃先に触れるだけの始動位置を手作業で設定していた。同社のセンサーを使えば、その手間を省略できるため、「作業効率が3〜4割向上する」という。

その結果、マシンングセンター向けセンサーでは「世界市場の7割を握る」(松橋社長)までに成長した。売り上げの約半分を工作機械向けが占めており、半導体製造装置やエレベーターのブレーキ向けなどにも用途を広げている。

好調な業績を背景に、新卒者を積極採用する。現在、正社員は約40人だが、来春は11人を新卒採用する予定だ。「今後もスマホなど成長分野の需要を積極的に取り込みたい」(松橋社長)という。



機械式の精密位置決めセンサー(写真上)。生産工程の約8割は手作業で、700種類のセンサーを生産する(同下)



生産はすべて本社工場で行われている。(漆間泰志)

## 位置決めセンサーメトロール